

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」小倉到津校			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日 ~ 2025年 12月 18日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日 ~ 2025年 12月 13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 18日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの成長に寄り添い支援を実施していること	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達状況や特性に応じた個別支援計画を作成し、専門スタッフが丁寧に対応しています。 定期的なモニタリングで支援内容を見直し、保護者と連携しながら最適な支援を提供しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の目標や進捗を子ども自身や保護者にわかりやすく伝えるツールを作成することを検討します。 支援の成果や課題を定期的に共有し、柔軟なプランを調整する仕組みを整備します。
2	安心・安全な環境を提供していること	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが落ち着いて活動できるよう、施設内の動線や遊具の配置に配慮しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に施設環境を点検し、子どもたちが安心して過ごせる環境を維持します。 子どもの好みに合わせた遊具や教材を随時更新し、活動の幅を広げることを検討します。
3	子どもの主体性を育むプログラムを導入していること	<ul style="list-style-type: none"> 自分で選ぶ力や考える力を伸ばすプログラムを導入しています。 子どもたちの「やりたい」という気持ちを尊重し、主体性を引き出す支援を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや活動の活動に、多様なテーマを取り入れ、幅広い選択肢を用意します。 日々の活動計画と一緒に立てる機会を提供します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部連携の機会が少ないこと	<ul style="list-style-type: none"> 他事業所や地域資源との継続的な情報共有・交流の機会が限られている。 子どもたちが地域行事や社会資源に触れる経験が少ない状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の事業所や地域施設と連携し、共同での活動や交流の機会を検討する。 公共施設等を活用し、地域とのつながりを意識した活動を段階的に増やしていく。
2	児童発達支援の契約数が少なく、小集団での療育活動を十分に実施できていないこと。	<ul style="list-style-type: none"> 未就学児の利用が少なく、年齢や発達段階の近い児童が集まりにくい。 小集団療育のニーズはあるものの、安定した実施人数の確保が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援を中心としながら、児童の状況に応じて少人数での活動機会を検討する。 児童発達支援の特色や支援内容について、関係機関や保護者への周知を強化する。
3	事業所が2階建てで、エレベーターがないことや事業所目の前が道路になっていること	<ul style="list-style-type: none"> 建物の構造上、環境面の改善に限界がある。 安全面や動線への配慮が必要な状況となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理を徹底し、必要に応じて物理的な対策（立ち入り制限等）を行う。 危険が想定される場合には、職員配置や環境調整により対応する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」小倉到津校
------	---------------------

公表日 2026年 2月 14日

利用児童数 2025年 12月 18日 2名 (2家庭)

回収数 2家庭

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1	1	0	0		限られたスペースではありますが、活動内容に応じて配置を工夫し、安全かつ落ち着いて活動できる環境づくりを行っています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	2	0	0	0		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2	0	0	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2	0	0	0		
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2	0	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2	0	0	0		
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2	0	0	0		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2	0	0	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	1	0	1	0		現時点では、保育所や幼稚園等との交流や地域の子どもとの活動の機会は実施していませんが、今後の検討課題としています。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレンツ・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	0	1	0		保護者も参加可能な研修等がある場合にはLINEで案内し、ブログやSNSを通して支援に関する情報提供を行っています。
保護者への説明等	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	2	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2	0	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	0	0	1	保護者会には不参加のため	2025年度は保護者会を開催しましたが、中学生のお子さんを持つ保護者を対象としていました。今後は幅広い層に適した保護者会の内容を検討していきます。

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1	0	0	1		いつでも相談を受け付けており、保護者・児童が安心して相談できる体制を整えています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	2	0	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2	0	0	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2	0	0	0		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2	0	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2	0	0	0		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	2	0	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	2	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	2	0	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」小倉到津校				公表日	2026年 2月 14日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令を遵守したスペースを確保しておりますが、利用児が多い日もあるため、学習スペース、遊ぶスペースなどの構造化を行っています。	学習スペースと遊ぶスペースを分けているものの、遊ぶスペースは狭さを感じているため改善が必要。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法定の人員に加え、2名の指導員を加配し、利用児の多い曜日には非常勤職員の増員も行っています。		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		パーテーションなどを使用して、学習スペースと遊ぶスペースなどの構造化を行っています。	トイレのイラスト表示など行っている。手洗い時は、踏み台（椅子）に乗っているがもっと安全性に特化したものに変更したい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		定期的に消毒を行っています。また、食事の際は、別途テーブルを用意して勉強用と食事用に分ける仕様になっています。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			クールダウンできるように別途スペースを用意しているが、他の児が容易に入ることができるために、落ち着けない時がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		定期的に話し合いの機会を設け、より良い支援を検討しています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年に一度、保護者アンケートを実施し改善に繋げています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に管理者と1on1を実施し、意見を聞く機会を設け、改善に繋げています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		定期的に事業所外の者から内部監査を受けています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		(財)発達支援研究所へ研修を依頼し、年間研修計画のもので、支援に関する職員研修を行っています。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○	個別支援計画に基づいて支援のプログラムを職員間で相談しながら作成しています。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		フェイスシート、アセスメントシートの活用や情報共有の機会を通してニーズや課題の検討を常に行っています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		担当者会議を開催し、事業所職員で検討を重ね個別支援計画を作成しています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援前に個別支援計画を見直し、その日の支援プログラムを作成しています。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		統一したアセスメントツールを使用しています。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		「本人支援」は、5領域の視点から支援項目を設定しています。 「家族支援」「移行支援」は、日頃のお子様やご家族様の状況を把握することや困り感を共有して頂く中で様々な視点から分析し、関係機関と共有できるように努めています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		利用児にとっての課題や支援の方向性等を話し合う支援会議を開いています。		

供 給	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		少なくとも6か月に一度は個別支援計画の振り返りを行い、利用児に合わせたプログラムとなるよう工夫しています。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		保護者の希望に沿いながら、個別と集団を組み合わせた支援を提供しています。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		就業開始時に適宜ミーティングを行っています。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		その日の様子や変わったこと、周知しなければならないことの情報共有を行っています。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録は当日中に記入し、モニタリングの資料として活用しています。	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		少なくとも6か月に一度モニタリングを実施しています。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者や担当児童指導員が参加できるよう調整しています。	
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		かかりつけ医や相談支援専門員、学校担任など、関係機関と日々情報共有を行っています。	
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		定期的に情報共有の場を設けています。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学前には関係機関と連携して話し合いの場を設けています。	
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		関係機関との連携を図るよう心掛けています。	
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。		○		北九州市自立支援協議会にはこども部会がないため、参加していません。
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		関係機関との連携を図るよう心掛けています。	
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		支援の特質上、そのような機会は積極的に設けておりません。
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日頃から送迎時や連絡帳などで保護者と情報交換を行っています。	
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		定期的な保護者との面談の中で、お困りごとや相談があった際に必要な助言を行っています。しかしながら積極的に活動しているというには不十分であるため、今後保護者からのニーズに沿いながら検討していきたいと思っています。
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に書面と口頭で説明を行っています。	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		契約時やモニタリング時に、保護者の方へ要望を伺っています。	

保護者への説明等	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	<input type="radio"/>		契約時に書面と口頭で説明を行っています。	
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	<input type="radio"/>		行っています。また、より相談しやすい環境づくりを目指す一環として、家族支援・子育てサポートの体制を整えています。	
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	<input type="radio"/>		年に1回の保護者会またはワークショップを実施しております。きょうだいの参加も受け入れております、今後もより良い保護者同士の交流の場がご提供できるよう努めてまいります。	
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	<input type="radio"/>		苦情受付窓口、担当者を設置し、迅速かつ適切に対応できるよう努めています。	
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に對して発信しているか。	<input type="radio"/>		事業所の公式LINEを使用して活動の様子を保護者発信しています。また、月に2回更新するHPのブログでも情報を発信しています、	
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	<input type="radio"/>		鍵付きのキャビネットに個人情報を保管しています。	
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	<input type="radio"/>		口頭のみでなく書面やLINEにて連絡できる体制を整えています。	
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		<input type="radio"/>		地域住民の招待等は行っておりません。児童それぞの療育プログラムに沿い可能な範囲で検討しています。
	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	<input type="radio"/>		各マニュアルを作成しており、訓練を定期的に行っています。	
非常時等の対応	46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	<input type="radio"/>		BCPを策定しており、毎月1回火災や地震等の避難訓練を実施しています。	
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	<input type="radio"/>		保護者様に調査票を提出していただき、熱性けいれんなど子どもの持病を共有理解できるように努めています。	
	48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	<input type="radio"/>		アセスメント時にアレルギーについて慎重に聴取し、徹底しています。	
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	<input type="radio"/>		ヒヤリハットや事故報告書を作成し回覧で共有、研修なども実施し事故防止に努めています。また、安全計画の作成も行っています。	
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	<input type="radio"/>		ヒヤリハットや事故などは必ず保護者に報告して話し合ながら、ヒヤリにつながった原因を考え、保護者や職員間で共有しています。	
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	<input type="radio"/>		ヒヤリハットの報告書を作成し、終礼等で共有し、職員間で原因や未然に防ぐ方法について話し合う場を設けています。	
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>		入社時研修、毎月の虐待防止・身体拘束廃止委員会研修、行政の研修で虐待防止に関する意識向上を図っています。	
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	<input type="radio"/>		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得たうえで、放課後等デイサービス計画に記載しています。	